

世界連邦運動70周年記念

日本大会を同日開催

が出席した。

主催者である世

界連邦日本推進協

議会の中野寛成会長代行は、

世界連邦運動の経過と現在の

活動を振り返るとともに、核

兵器禁止条約が国連で採択さ

れたことに触れ、自治体の働

きかけが国の署名につながる

と当協議会をはじめ、関係機

関への連携を呼びかけた。

「世界連邦宣言と非核平和宣

誓市として歓迎の意を表明。

亀岡市の桂川孝裕市長は開

開会の挨拶で登壇する

中野会長代行

第34回世界連邦日

において

府亀岡市

の決意を述べた。同じく登壇

した当協議会の山崎会長は國

による核兵器のコントロール

の限界と中東和平プロジェクト

トに触れ、「今日の理想を明

日の現実にするよう努力して

いこう」と呼びかけた。

この交付金を受けるには、

「世界連邦」を標榜し、この

交付金を受けている旨を表

示していること、他の補助

ことを期待しております。

世界連邦宣言自治体全国協議会（会長、山崎善也・綾部市長）の平成30年度総会を8月18日、京都府亀岡市で開催。平成29年度事業・決算報告、平成30年度事業計画・予算について審議し、いずれも原案どおり承認・決定した。

平成30年度総会には、加盟自治体の首長や議長、関係職員のほか、来賓として世界連邦運動協会・世界連邦日本全国委員会の関係者らを招き、約20人が出席。山崎会長は冒頭、7月豪雨の被災者に哀悼の意を表すとともに、亀岡市において本総会、世界連邦

日本大会及び中東和平プロジェクトが開催されることに謝意を示した。また、6月の米朝首脳会談における中で「今一度、活動の原点を確認し、世界連邦宣言の意義をかみしめ、加盟自治体が一致団結して活動を展開したい」と訴えた。

協議会で平成15年以来実施している中東和平プロジェクトに触れ、「『憎むべくは国同士ではなく争いである』という思いを共有し、次の世代に和平を託したい」と述べた。

今年は本格的に世界連邦運動が始まってから70周年を迎える中で「今一度、活動の原点を確認し、世界連邦宣言の意義をかみしめ、加盟自治体

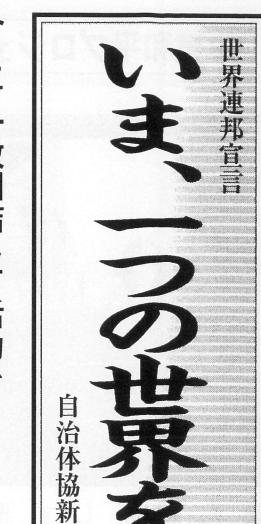
が一致団結して活動を展開したい」と訴えた。

会顧問）が「世界の人とともに一和の心」をテーマに記念講演を行った。自らの戦争体験をもとに、日本人に根付いていた誠実さ、忍耐力、相手にゆずる心が大切であると語った。

また、国際連合の限界と世界連邦実現の難しさを伝えるとともに、草の根の活動の大切さに触れ、各団体が連携して世界連邦実現に向けて具体的な行動を起こす必要があると訴えた。

動70周年記念・亀岡市生涯学習都市宣言30
世界連邦日本大会2018

千玄室氏



発行 世界連邦宣言自治体全国協議会
(事務局=京都府綾部市)
〒623-8501 綾部市若竹町8-1
TEL (0773) 42-4217
FAX (0773) 42-4905



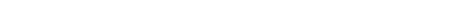
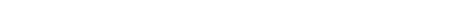
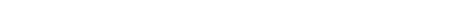
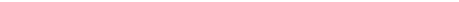
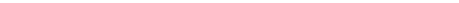
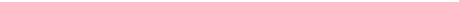
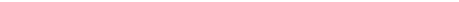
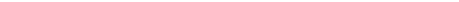
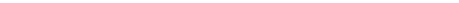
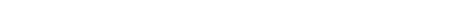
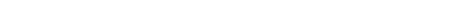
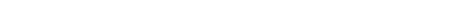
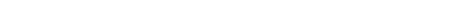
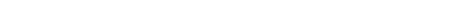
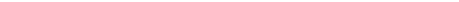
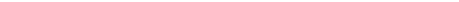
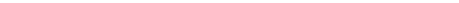
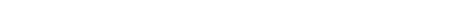
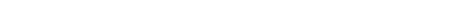
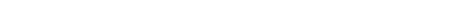
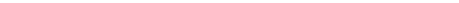
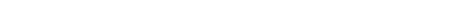
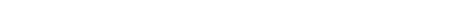
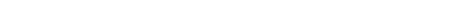
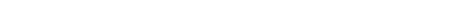
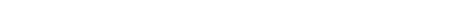
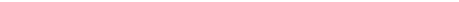
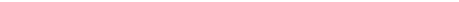
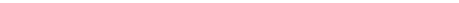
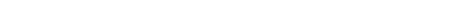
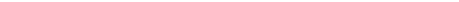
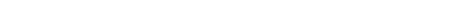
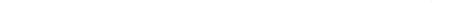
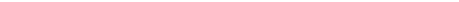
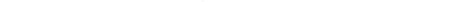
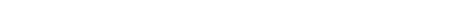
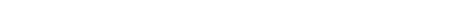
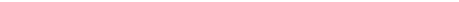
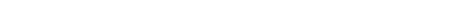
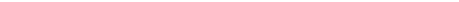
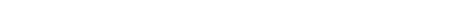
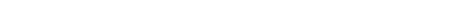
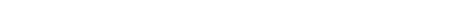
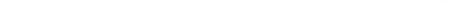
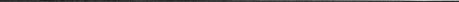
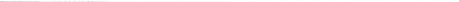
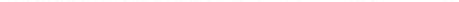
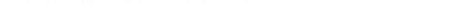
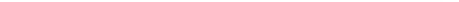
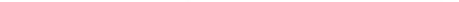
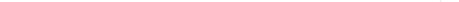
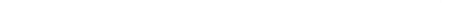
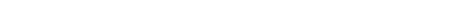
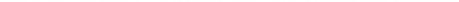
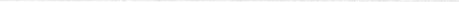
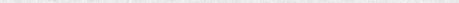
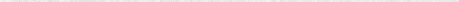
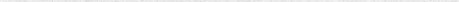
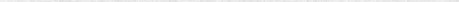
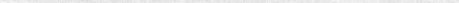
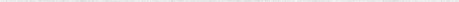
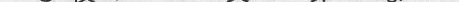
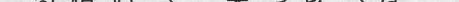
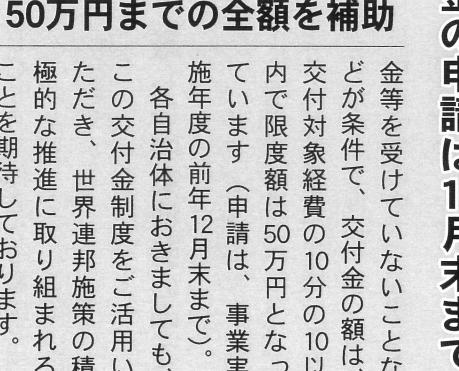
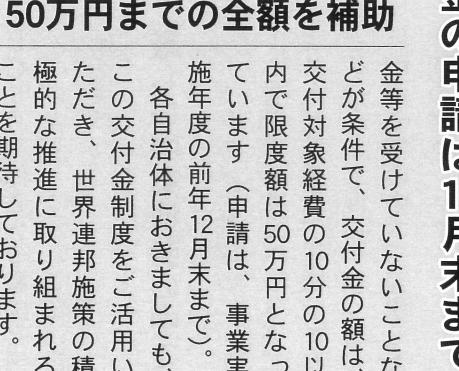
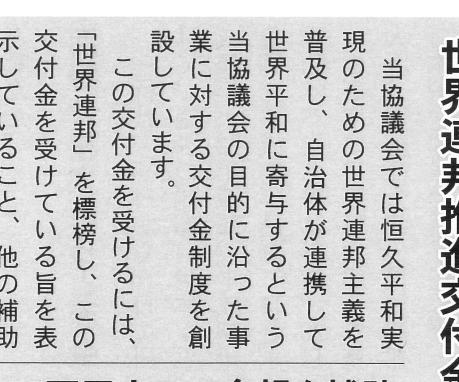
総会で挨拶する山崎会長

に向けた平和都市として関係機関と連携し平和と非核化に向けて取り組んでいきたい」と述べた。

また、中東和平プロジェクトで来日しているイスラエル・パレスチナ紛争遺族会の関係者が、和平の取り組みのスピーチを行った。

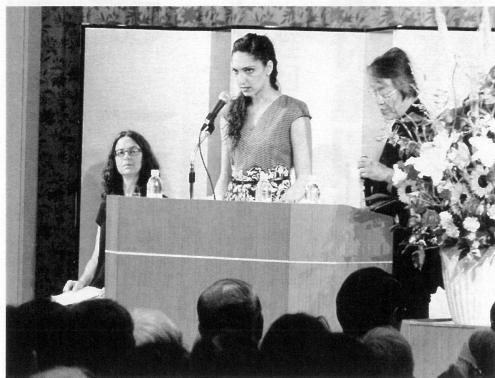
言を行った平和都市として関係機関と連携し平和と非核化に向けて取り組んでいきたい」と述べた。

世界連邦宣言自治体全国協議会の山崎会長は開会の挨拶で登壇する



中東和平プロジェクト2018

イスラエル・パレスチナ紛争遺族会関係者が来日



世界連邦日本一
大会でスピーチするアマル・ヤイファット氏(左端)、アーヴィング・ラウ氏(右端)

10回の開催で約100人が来日

「中東の和平は世界の平和に通じる」との理念から平成15年に綾部市で始まった中東和平プロジェクト。経費の一部には、全国の自治体職員からの募金を財源とする当協議会の交付金を充当するなど中核事業として支援し、平成28年の高野町まで10回の開催で延べ107人に及ぶ紛争遺児らを日本に招き交流を

8月14～21日の日程で、「中東和平プロジェクト2018」(主催：第34回世界連邦日本大会in亀岡実行委員会)が開催。今回は、子ども達を派遣する窓口となつていたイスラエル・パレスチナ紛争遺族会(PCFF)の関係者を招へいする初めての形で実施された。

一行は、過去の開催自治体や関係機関を訪問するなど、自らの体験やPCFFの和平活動等について広くアピールし、熱心に意見・情報交換等を行うとともに、今後のプロジェクトの実施に向けての確認の場ともなつた。

微力な取組でも決して無力ではない！



綾部市での平和祈願イベントで鐘を打鳴する2人

平成25年の京丹後プロジェクトに紛争児として参加していたアマル氏は、当時のホストファミリーとの再会を果たし、「日本での経験が祖国での活動の力になっている」と強く語った。

また、今回が初来日となるヤイファット氏は「約1週間にわたりパレスチナ人であるアマル氏と行動と共にすることは現地では難しく貴重な体験」とコメント。当プロジェクトの取組を「暗闇の中の光」

苦い経験を乗り越え

今回来日したのは、パレスチナ側アマル・アブ・アヤシュ氏とイスラエル側ヤイファット・モハル氏の2人。それぞれ生前・幼少期に紛争により親族を失った経験を持ちながらもPCFFの一員として積極的に和平活動に参画してきた。

世界平和・難民救済募金に549万円

「世界平和と難民救済のための自治体職員1人100円募金」は、当協議会の中核事業として昭和61年から毎年実施。平成29年度には165団体から約549万円の寄附をお寄せいただき、国連UNHCR協会・日本ユニセフ協会への寄託、中東和平プロジェクトをはじめとする世界連邦・平和推進事業に充当するための基金造成を行いました。

なお、平成30年度は、例年より募集期間を前倒しし、12月から1月までに実施する予定です。各自治体におかれましては、積極的なご協力をあ願いします。

ご協力ありがとうございました



外務省では河野太郎・外務大臣(中央)らを表敬

河野外務大臣らと面会

一行は、15日から18日にかけて、過去の開催自治体(平成15年・22年綾部、平成18年亀岡、平成28年高野)に赴き平和イベント等に参加。20日には東京で、河野太郎・外務大臣、衛藤征士郎・世界連邦日本国会委員会会長を表敬し、

厳しい中東情勢の中で

トランプ米大統領のエルサレム首都宣言やイスラエルによる入植地拡大、抗議デモなど依然として混迷が続く厳しい中東情勢の中で、実現した今回のプロジェクト。

と諭えた。

PCFF関係者への激励と当プロジェクトについて高い評価を受けた。